7月号

横浜市立中田小学校　学校だより　第452号

中　田　小

平成30年6月29日

学　校　教　育　目　標

さわやか笑顔中田っ子　思い合い　ひびきあい
共に生きる力を育てます。

中田小ホームページ

http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nakada/

『パブリック』と『プライベート』

校　長　　蒲谷　　猛

『大空賛歌』

作詞：　桑原ほなみ
作曲：　黒沢吉徳

歌え　青い空に
歌え　高い雲に
空は広く限りなく
　　僕等の夢なんだ
蝶は舞って　雲も流れ
鳥は楽しく　駆け巡る
ああ　広い大空
　自由に　はばたけるなら
僕も　飛んで行きたい
　　どこまでも

仰げ　青い空を
仰げ　高い雲を
空は光　満ちあふれ
　　僕等を照らしてる
迷いながら　明日をめざし
進む僕等の　行く手には
ああ　広い大空
　すんで　きらめいている
僕を　読んでいるような
　　白い雲
（３番 略）

「おねえさん、はずかしくないの？」

市営地下鉄の駅に貼ってあった乗車マナー啓発ポスターの言葉です。公募ポスターの入賞作品で、作者は市内小学校の２年生。本来私的な空間でおこなう行為を、公的な空間でおこなうことに違和感を感じているこの作者児童の感性はすばらしいなと思い、立ち止まってポスターを眺めてしまいました。

私がかつて担任をしていたときに、毎年必ず「目指す姿」として学級の子どもたちと共有していたのが、「『パブリック』と『プライベート』の使い分け」です。教室は、「日常の決まり事」や「うちらの事情」をわかり合っている、いつも共に過ごす仲間、言わばファミリーが生活を送るスペース（だからプライベートと捉える）です。しかし、廊下や階段、校庭などは、不特定多数が同時に利用する公的なスペース（パブリック）。教室のドアレールをまたいで、廊下に一歩踏み出した瞬間に、『パブリック』と『プライベート』は同じではいけないという意識から、自分の声の大きさや歩き方を変えられるなど、場に応じた行動を選択できる人でいてもらいたいと考えるからです。

本校の子どもたちと校外学習に公共交通機関で出かけるとき、いずれの学年も、背負っているリュックを前に抱えるように持ち替えます。理由を聞いたら、「後ろだと人にぶつかったり、通りにくかったりしても気づかないから。」と即答してくれたというエピソードは、以前の学校だよりでも紹介したとおりです。車内で大勢で大声で話しては迷惑だと意識できている子どもも多い方だと思います。ある程度は、パブリックとプライベートを区別する意識が育ちつつあるなと感じさせられます。

一方、登下校時の歩道でつい道幅いっぱい広がってご迷惑をおかけしてしまう姿も見られます。朝会の校長講話で、「半分こ」の気持ちをもち、半分は自分たちで使わせてもらって、半分はいつでもほかの方々のために開けておく、そんな意識をもてる人になろうねと目標共有しましたが、一進一退です。

「廊下は走らない」「歩道は、１～２列で歩きなさい」「車内で大声でおしゃべりしない。」「迷惑がかかっているよ。」など、 指示されたり叱られたりするからではなく、パブリックスペースにでたら、自分の好き勝手ではいけない、迷惑がかかる、恥ずかしいという自分の意識に基づいて行動できる子どもに育てていきたいと、一枚のポスターをきっかけに改めて思いを強くしました。

もうすぐやってくる夏休み。子どもたちにとって、実際に「パブリックスペース」のなかで学ぶ機会が広がっています。実体験をとおして感性を磨いたエピソードを、休み明けに子どもたちからたくさん聞けたらいいなと願っています。